

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制		ビジネスデザイン学部教授会
(責任者名)	濱島 敦博	
(役職名)	ビジネスデザイン学部長	
② 自己点検・評価体制における意見等		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本学の教学システムおよびLMSを活用し、本プログラムを構成する各授業科目の履修者数、単位修得状況、成績分布等を毎年度確認する。これらの情報をもとに、科目ごとの履修状況や修得状況に著しい偏りがないか、また学生が計画的に対象科目を履修し、修了要件を満たすことができるかを点検する。点検結果については、ビジネスデザイン学部の自己点検・評価に関する規程に基づき確認する。その結果を踏まえ、情報テクノロジーコース担当教員を中心に、授業内容、履修支援、成績評価の状況等を検討する。必要な改善については、ビジネスデザイン学部教授会において確認・承認し、次年度以降の授業運営、履修指導、シラバス内容等の改善につなげる。
学修成果		各科目のシラバスに定める到達目標に対する学生の到達度について、成績評価、課題・レポート、発表、PBL課題の成果物、ルーブリック評価等を通じて確認する。本プログラムでは、データサイエンスやプログラミングに関する知識・技能を、PBL科目等での課題解決の実践と結び付けて学ぶため、理論面と実践面の双方から学修成果を把握する。また、授業評価アンケートや学生の自己評価結果等も参考にし、ビジネスデザイン学部の自己点検・評価に関する規程に基づき、必要に応じて授業内容、課題設定、評価方法等の改善を検討する。
学生アンケート等を通じた学生の理解度		本プログラムに含まれる授業科目について、学期末の授業評価アンケート等を活用し、学生の理解度や授業内容の分かりやすさ、学修上の課題を確認する。特に、「プログラミング」や「データサイエンス応用」など、文系学生がつまづきやすい内容を含む科目については、理解度や到達度を重点的に確認する。理解度に課題が見られる場合には、担当教員を中心に、授業進度、説明方法、課題設定、LMS等を活用した補助教材の提供方法などを見直し、授業改善につなげる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		本プログラムに含まれる授業科目について、授業評価アンケート等を活用し、学生の満足度や、授業を受けてよかった点、学びが役立つと感じた点を把握する。特に、学生がどのような点に学びの意義や実際の課題解決に役立つ要素を感じているかを把握し、後輩学生への履修案内や学部内での周知に活用する。また、必要に応じて上級生がTAとして学修を支援する機会を設けるほか、BDテック部の活動等を通じて、データサイエンス、プログラミング、AI活用等に関心を持つ学生同士が学び合う機会を設ける。これにより、本プログラムで身に付けることのできる能力や学修の意義を学生目線で共有し、後輩学生の関心や履修意欲の向上につなげる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムは、ビジネスデザイン学部の教育課程を基礎として実施するものであるため、同学部内における履修者数および履修率の向上を中心に進捗を確認する。毎年度、履修登録完了時および単位認定後に、対象科目の履修者数、単位修得状況、修了要件の充足状況を確認し、様式3で設定した計画の達成状況を点検する。情報テクノロジーコースの学生については、コースの学びと本プログラムとの関係を踏まえ、対象科目を計画的に履修できているかを確認する。また、ビジネス創造コースの学生についても、卒業要件単位に算入される対象科目を中心に、履修状況を把握する。履修者数や履修率に課題が見られる場合には、情報テクノロジーコース担当教員を中心に要因を確認し、履修ガイダンスや学部内案内の充実、初学者向けの学習支援等の改善策を検討する。必要な見直しについては、ビジネスデザイン学部教授会において確認し、次年度以降の取組に反映する。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本プログラムの修了者の卒業後、卒業時アンケートや卒業後調査等を通じて、修了者の進路、就職先における職務内容、データやデジタル技術の活用状況等を把握する。これにより、本プログラムで身に付けた知識・技能が進路選択や卒業後の活躍にどのようにつながっているかを継続的に確認する。なお、修了者を輩出するまでの期間については、「PBL応用Ⅱ」や学外プロジェクト等の実践的授業科目において、連携企業・自治体の担当者から学生の提案内容、課題解決力、データやデジタル技術の活用状況等に関する意見を聴取し、今後の授業改善の参考にする。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		学内の教育効果測定に加え、PBL科目の協力企業、自治体、インターンシップ受入先等の担当者から、学生の課題発見力、課題解決力、データやデジタル技術の活用能力、提案内容の実現可能性等について意見を聴取する。これらの意見を踏まえ、社会や産業界で求められるデータ活用、AI活用、デジタル技術の基礎的理解と実践的活用力を養成できているかを確認する。必要に応じて、授業内容、課題設定、教材、シラバス等の見直しにつなげる。
教理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		本プログラムでは、データやAIを、単に技術として学ぶだけでなく、社会課題やビジネス上の課題を解決するための手段として理解できるよう、実社会の課題や具体的な事例と結びつけた授業内容を重視している。観光、地域ビジネス、商品企画等の身近なテーマを扱い、フィールドワークやPBLを通じて学生自身が課題を発見し、必要なデータを収集・分析し、提案につなげる学修機会を設けている。また、アプリ開発や生成AI等の活用を通じて、学生が自らのアイデアを形にする実践的な経験を積めるようにしている。これらの取組により、学生が教理・データサイエンス・AIを自分の学びや将来の進路と結び付けて捉え、学ぶ意義や面白さを実感できるようにする。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		生成AIをはじめとするAI技術やデータ活用の手法は急速に変化しているため、本プログラムでは、社会や産業界の動向を踏まえ、授業内容、教材、使用するデータセット、扱うツール等を継続的に見直す。見直しにあたっては、授業評価アンケートの結果、学生の理解度、成績評価、PBL科目における成果物、連携企業・自治体からの意見等を参考にし、また、文系学生が教理・データサイエンス・AIの内容を段階的に理解できるよう、専門用語の説明、演習課題の難易度、授業進度、LMS等を活用した補助教材の提供方法を工夫する。履修ガイダンスや学部内案内を中心に、授業内容や教材の改善案を検討し、必要な見直しについてはビジネスデザイン学部教授会において確認することで、教育内容の水準を維持・向上させながら、より分かりやすい授業の実現につなげる。
※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を機動的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		